

〈南方熊楠略年譜〉

年号（西暦）	年齢	出来事
慶応3（1867）年	0歳	4月15日 父・南方弥兵衛、母・すみの次男として誕生
明治6（1873）年	6歳	雄小學校入学
明治9（1876）年	9歳	鐘秀學校入学、『和漢三才図会』・『本草綱目』などを筆写し始める（12歳の頃に完成）
明治12（1879）年	12歳	和歌山中學校入学
明治16（1883）年	16歳	和歌山中學校卒業、東京神田共立學校入学
明治17（1884）年	17歳	東京大学予備門入学
明治18（1885）年	18歳	江ノ島・鎌倉・日光に旅行／12月、試験に落第
明治19（1886）年	19歳	東京大学予備門退学、帰省／羽山繁太郎・蕃次郎と親しく交際／12月、渡米
明治20（1887）年	20歳	サンフランシスコ到着／パシフィック商科大学入学／ランシング州立農學校に転校
明治21（1888）年	21歳	ランシング州立農學校退学、アナバーへ向かう
明治22（1889）年	22歳	「珍事評論」（第一号、第二号）を発行
明治24（1891）年	24歳	ジャクソンヴィル→キーウエスト→キューバへ採集旅行（曲馬団と共に西インド諸島を巡業）
明治25（1892）年	25歳	渡英、ロンドンに住み始める
明治26（1893）年	26歳	「ネイチャー」に『極東の星座構成』が掲載される／土宜法龍と出会う／「事の学」を構想
明治27（1894）年	27歳	大英博物館書籍室に通い始める
明治28（1895）年	28歳	『ロンドン抜書』開始（1900年まで）
明治30（1897）年	30歳	東洋学者シュレーゲルと「落斯馬論争」／孫文と出会う／大英博物館で毆打事件を起こす
明治31（1898）年	31歳	大英博物館内で再び事件を起こし、大英博物館から追放される
明治32（1899）年	32歳	南ケンジントン博物館、英国自然史博物館に通い始める
明治33（1900）年	33歳	帰国
明治34（1901）年	34歳	孫文と和歌山で再開・歓談する／那智・勝浦へ向かう
明治35（1902）年	35歳	小畔四郎（熊楠の粘菌研究における高弟）と出会う
明治36（1903）年	36歳	『燕石考』完成／英訳『方丈記』完成／「南方曼陀羅」が土宜法龍宛書簡に記される
明治37（1904）年	37歳	勝浦を立ち田辺へ
明治38（1905）年	38歳	ディキンズとの共訳『方丈記』が「王立アジア協会雑誌」に掲載される
明治39（1906）年	39歳	田村宗造の四女・松枝と結婚
明治40（1907）年	40歳	長男・熊弥誕生／世界的粘菌学者リスター父娘との交流が始まる
明治41（1908）年	41歳	『田辺抜書』開始（1934年まで）／熊野採集旅行
明治42（1909）年	42歳	神社合祀反対運動開始（1918年頃まで）／米国農務省スウィングルより招聘状が来る
明治43（1910）年	43歳	夏期講習会に乱入、18日間拘留される
明治44（1911）年	44歳	長女・文枝誕生／柳田国男との交流開始（1926年まで）／『南方二書』刊行
明治45・大正元（1912）年	45歳	「日本及日本人」に『神社合併反対意見』が連載される
大正3（1914）年	47歳	「太陽」に『虎に関する民俗と伝説』を掲載（『十二支考』執筆開始）
大正4（1915）年	48歳	スウィングルが田辺を訪れ、再度アメリカへの招聘を伝えるが、固辞する
大正5（1916）年	49歳	弟・常楠名義で、田辺町中屋敷に宅地購入
大正6（1917）年	50歳	自宅の柿の木から新種の粘菌を発見（ミナカテラ・ロンギフィラ）
大正9（1920）年	53歳	第1回高野山採集旅行
大正10（1921）年	54歳	第2回高野山採集旅行
大正11（1922）年	55歳	南方植物研究所設立資金を集めるため上京
大正12（1923）年	56歳	土宜法龍死去／日本産粘菌141の目録をグリエルマ・リスターに送る
大正14（1925）年	58歳	矢吹義男宛書簡（いわゆる『履歴書』）執筆／長男・熊弥、発病
大正15・昭和元（1926）年	59歳	『南方閑話』・『南方随筆』・『続南方随筆』出版
昭和2（1927）年	60歳	熊弥の病状が悪化し、多くの粘菌図譜等が破棄されたという
昭和3（1928）年	61歳	妹尾官林で植物採集
昭和4（1929）年	62歳	昭和天皇を田辺湾・神島に迎え、長門艦上でご進講／粘菌標本を110点進献する
昭和5（1930）年	63歳	神島が和歌山県天然記念物に指定される
昭和6（1931）年	64歳	「浄の男道」論を岩田準一宛書簡に記す
昭和11（1936）年	69歳	神島が国の史跡名勝天然記念物に指定される
昭和16（1941）年	74歳	12月29日、死去／脳髄は大阪帝大医学部病理学室に保存される

